

🎉 2025 年（令和 7 年）の年頭にあたり 🎉

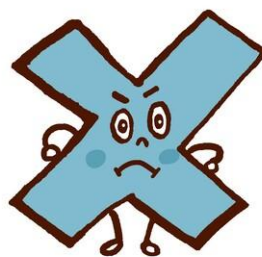
2020 年 7 月豪雨をうけて国・県はずさんな被害調査を基に、ダムが建設されれば流域の被害は防げるとして川辺川流水型ダム建設計画を発表しました。

私たち手渡す会は、災害の直後より数多くの証言、写真等を入手し被害の実態解明の調査を行いました。その結果以下のようなことが判明しました。

- ① 人吉市街地より上流の球磨川・川辺川流域では、内水氾濫を除けば大きな被害は発生していない
- ② 人吉市街地では万江川、山田川等の支流による氾濫が災害の主原因である
- ③ 球磨川・川辺川の合流点直下に位置する球磨川鉄道の第 4 橋梁で、民間業者による直上の貯木が川に流れ込み閉塞状態となったことでダム湖と化したのちに決壊、溜まっていた膨大な濁流が人吉市街地に流入し被害が拡大した
- ④ 人吉より下流の球磨村、芦北町、坂本町では支流の氾濫や土砂崩壊により当日未明より被害が発生していた
- ⑤ 洪水によるほとんどの死者は、洪水ピークより数時間前に亡くなっていた

一方、国・県は以下のような発表をしてダム建設を正当化しています。

- ① ダムがあれば人吉市街地の浸水はなかった
- ② 支流の氾濫は川辺川にダムを造れば防げる
- ③ ダムがないと 120 名の死者がでる
- ④ 流水型ダムは清流をまもる



私たち手渡す会は、調査結果を基に、幾度となく国・県に対して被害の原因解明のための共同検証を行うよう求めましたが、国・県は求めに応じないばかりか、こちらが提出した事実に基づく資料を一顧だにしません。五木、相良村の大半の住民がダムに不安や反対の意見を持っているのに、国・県は聞こうとしません。

県庁におもむき被災した流域住民の証言と多様な映像データを見せても、都合の悪いときはだんまりを決め込み、被災者に寄り添う姿勢はみじんも感じられません。県の職員が県民の立場に立っていないことは明白になりました。

国は、いい加減な環境アセスメントを行い、五木村村長のダム建設同意を受け、ダム建設の事業認定に向けて異例のスピードで事業を進行しています。

環境アセスメントに際し、ダム建設による生物多様性の喪失、流域住民の生命の危険の増大、ダム湖予定地一帯の斜面崩壊、地域限定の問題等多様な意見を私たちは提出しましたが、それらの意見は全く反映されていない内容となっています。また球磨川流域12市町村首長で構成する川辺川ダム建設促進協議会は、12月20日に国土交通省を訪れて、川辺川ダムの早期完成を要望しています。

水上村から錦町の地域は、川辺川の洪水による影響を受けないにも関わらず、なぜ川辺川ダム建設を推進しようとするのでしょうか。錦町では国の策定目標の遊水地計画に反対の声が上がっています。自分の行政区では対策を推進することなく、よその地区にはダム建設という苦難を強いる町長の態度には、あきれ果てる思いです。

さらに11月26日に手渡す会が国・県に書面で提出した「どのようにして清流を保存するのか」という質問に、県の担当課は12月25日に口頭で（本来なら文書で回答するのが常識）「9月の県議会で知事も答弁しているが、清流の定義についてはひとりひとり異なるので、ひとつの言葉や指標で表せるものではないと考えている」と回答しました。つまり国・県は清流の基準や指標を持たずに清流を守ると言っているのです。命も清流も守れず、利権、利欲のために建設を強行しようという姿勢が誰の目にも明らかです。

共同検証も討論集会もしない、ウソでまみれた言い訳を振りまいて、ダムを造ろうとする行政、利権がらみの政治家が牛耳っている行政に、もはや何も期待できません。

手渡す会では今年、住民が主体となる住民討論集会の開催を考えています。もちろん国・県にもテーブルに着くように呼びかけます。討論で明らかにしたことを、熊本県民をはじめ日本中に広めることが、世論を大きく動かす力となるのではと考えています。また良識のある国会議員へのダム反対の要請も行なってまいります。

本年は相良村・五木村で議員選挙が行われます。ダム建設に反対の意思を持つ議員が数多く誕生するように呼びかけてまいりたいと考えています。

皆様おひとりひとりのダム反対の声が世論を形成していきます。力を合わせて川辺川ダム建設をストップさせましょう。

命も清流も守れない
川辺川ダムはいらない！

みんなで声をあげ続けましょう！





鬼退治に出掛けましょう！

～河川法（鬼の大王）と川辺川ダム（鬼の大將）～

温暖化による豪雨災害が河川法を直撃

温暖化が引き起こす気候変動による豪雨災害は、ダムと堤防を築いて洪水を川に閉じ込める基本高水治水で災害は防止出来るとする河川法を直撃しています。

温暖化による気候変動の大きな特徴の一つが雨の降り方です。温暖化現象が起きる前は一日に100ミリ以上の雨を豪雨と呼んでいました。今は一時間に50～100ミリの雨が数時間降り続くようになりました。この雨は集中豪雨と呼ばれています。

しかも、この雨は流域全域には降りません。川の上流域にある山地に降るとも限りません。流域の地形によって降る所が大きく変わります。球磨川流域では球磨村や山江村の山地です。気候変動のもとで降る雨は局所集中豪雨と呼んでいます。

この局所集中豪雨は即その流域に激甚な災害を引き起こします。この局所集中豪雨がダムより下流域であればどうでしょう。ダムは何の役にもたちません。球磨川流域においては河川法に書き込まれた治水は災害を防止するどころか災害を激化させていることが明らかになりました。

ところが、国や県は住民から川を取り上げた河川法を振りかざして川辺川ダム建設を推し進めています。河川法は川を壊し、災害を激化させている鬼の大王です。

ゴマカシとウソとダマシの川辺川ダム

全国至る所で局所集中豪雨による激甚な災害が発生するようになると、国はその災害の責任を流域住民に押し付けるようになりました。災害が激化した原因は住民の防災意識の欠如にあるとしたのです。いま、全国で一番熱心に取り組まれているのが逃げ遅れゼロ対策です。

川辺川ダムがあれば2020年に発生した豪雨災害は防止できたと大宣伝しながら流域治水の名の下に、ダム以外の治水対策や逃げ遅れゼロ対策の取り組みを住民に押し付けています。また、治水専用のダムを如何にも環境にやさしいダムと思わせる流水型ダムという言い方に置き換えて川辺川ダム建設を進めようとしています。でも、川辺川ダムは流域住民の宝である清流川辺川を根こそぎ破壊してしまう巨大コンクリート建造物にすぎません。

2020年の球磨川流域豪雨災害の時、中流域が中流域に降った局所集中豪雨で激甚な災害が発生している最中、市房ダムが緊急放流を行う事態に陥ったので直ちに安全な場所に避難するようにという指示が出されました。これは川を堰き止めて洪水を貯め込む治水技術が必然的に引き起こす現象です。最近、温暖化による気候変動の中、緊急放流は全国で頻発しています。

国は緊急放流に備えて河川工事の強化を打ち出し、川をコンクリート張りの用水路に変えてしまう開発を推進しています。川辺川ダムは日本一大きな治水ダムです。川辺川を壊滅し、流域住民を緊急放流の危険に晒し続けることになります。川辺川ダムは最も危険な鬼の大將です。

川が育む豊かな自然と住民の命と暮らしを守るため
鬼の大王と鬼の大將は住民の力で退治しましょう!!





主題 「気候変動による豪雨災害と河川法」 ～熊本豪雨被災地からの問題提起～

2024 年 12 月 15 日 13 時 30 分より 熊本国際交流会館にて開催

12 月 15 日の研究集会は、手渡す会の取り組みで常に河川法が立ちはだかつてきた事を踏まえ、開催しました。

1997 年の河川法改正は、治水・利水にくわえて市民参加と環境を位置づけました。2000 年代初頭、熊本でも潮谷義子知事の英断で約 3000 人が参加して激論を交わす「住民討論集会」が開催され、治水と並んで環境もダム事業をめぐる論点とされました。これらは 1997 年河川法改正の“成果”と言えるでしょう。

しかし、環境保全や市民参加をめぐる国や県の本気度がなければ、形骸化します。令和の川辺川ダム計画めぐり、そうした問題が現在進行形で起きています。国や県による豪雨災害の検証が不十分／誤認があっても、河川法に定められた河川整備計画が出来てしまえば、不十分さや誤認はほぼ無視したまま、地域を分断するダムや遊水地が着々と進められます。

こうした問題意識のもと、本会顧問の黒田弘行さんと元河川官僚の宮本博司さんに基調講演をお願いし、河川法改正を 90 年代末から提起していたジャーナリストのまさのあつこさんをコメンテータ、高知大学・森明香さんをコーディネーターとして進めた研究集会では、河川法で定められた基本高水や河川整備計画がウソ・ごまかし・隠し・逃げの上に成り立っている実情や、それが罷り通る官僚機構、現場の確かな事実が持つ重要性を、具体的なエピソードやデータを交えて議論しました。

当日は約 40 名が会場にて、25 名がオンラインにて参加してくださいました。資料等は手渡す会 HP で公開しています。ぜひ「手渡す会 HP」をご覧ください。



検索は

「<https://tewatasukai.com>」

「清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会」

手渡す会は、今後も様々な研究集会を開催していく予定です。研究会には、どなたでもご参加頂けます。開催のご案内は会報・ホームページ等で行います。皆様のご参加お待ちしております



手渡す会書籍新刊 近日発刊予定！乞うご期待

球磨川流域豪雨災害とダム問題
～川と共に生きる住民の願いを実現させるために～

日本の治水計画の根底を揺るがす 2020 年球磨川豪雨災害の検証
人命を守れないダムなんて要らない！

定価 2,200 円（税込み） 売上金は清流を未来に手渡すための活動に大切にに使わせて頂きます

